



2017. 12. 11

やる気の育て方は？

子どもたちの中には、いろいろなタイプの子どもたちがいます。幼稚園くらいの年齢の子どもたちは、だいたいの子がやる気に溢れている子どもたちです。しかし、よく見ると「ぼくはいいから」と消極的な姿勢を見せる子どもたちもいるのです。どうも自分に自信が持てないで「うまくできないから」とか「まわりの人から何か文句を言われる」というマイナスイメージが先行していることが多いようです。

ではこの子たちにやる気を育てようとする、意外に難しいのです。やる気を持たせるには、ただ「やりなさい」と叱ったり、また、お尻をたたいても出てくるものではありません。

例え話の「馬を川につれて行くことはできても、水を飲ませることはできない」というとおりです。つまり、水を飲む気のない馬はいくら怒られたりたたかれたりしても飲まないものなのです。こんなときは、怒ったりたたいたりするかわりに、馬を運動させて水を飲みたいと欲求を起こさせることが大切ではないでしょうか。

これと同じように、子どもに何か活動をさせたいと思うときは、叱るよりも、子どもに「そうしたい」という気持ちを起こさせるようにしむけることが大切でしょう。

つまり、子どもの心に火をつけることです。やってみたいと燃え上がるような気持ちにさせることです。そのためには、次の事柄を親として意識することが大切だと思います。

- ① 日頃から親子の会話で、子どものねがいや夢をよく聞き、応援していることを伝える。
- ② 興味や関心を持たせて、失敗してもいいから挑戦させてみる。(おや、何だろう。不思議だなあという気持ちを大切にしておこなわせる。)
- ③ 親が気になることを横から口をはさまない。「もっと目を離して」「姿勢が悪いよ」などは、取り組んでいるときは、集中力がなくなる可能性があります。
- ④ 子どものしたことを認め、ほめて励ます。何かいいものを作った。完成した。こんなときは、ほめやすいのですが、できたものが完成度が低いと「これはいったい何なの？」と批判しやすくなります。しかし、忘れてはいけないことが、取り組んでいるときの態度もよく見てあげることです。例え出来上がりが十分でなくても「すごく一生懸命やっていたね」と態度を認めることが大切ではないでしょうか。
- ⑤ やり遂げさせて、しあげた喜びや満足感を体験させる。

このような配慮が大切になると思います。意外に、親の都合で「今はダメ」とか「また、今度ね」と言っていないか振り返ってみる必要があります。子どものやる気は、親の態度が大きく関わっていることを知っておきましょう。

インフルエンザに気をつけよう

11月の下旬に、ひまわり組ときく組がインフルエンザのため学級閉鎖になりました。12月の中旬には、1歳児クラス、ひまわり組、すみれ組が学級閉鎖になりました。今年はインフルエンザの感染力が強いので、あっという間に蔓延するらしいです。今からでも遅くないので、ワクチンがまだの人は確実に接種するようにお願いします。

保護者のみなさんへは「インフルエンザへの対応について(お願い)」を“お知らせ”で送信させていただきました。この内容は〈毎日の注意事項〉の中に、次の2つのことは、お子さんへ徹底をお願いしています。

- ・家庭でも、日頃より念入りな手洗い、うがいを励行する。
- ・せきが出る場合など、引き続き、“マイマスク”の使用に心がける。

インフルエンザにかからないためには、日頃からの体調管理が大切だと思います。ときどき耳にするのが、子どもには症状がなかったのだが、お家の人が職場からもらってきて、家族中に蔓延させたという話も聞きます。子どもたちだけではなく、家族全員の体調管理もよろしくお願いします。

他にも風邪に負けない注意点は、いろいろありますが、私は抵抗力を高めるための食事が大切だと思っています。バランスの取れた食事を心掛けましょう。また、疲れを残さないように十分な休養を取ることも大切です。ご協力をよろしくお願いします。

川棚の“クスの森”に思う

園長 有馬重人

私は20年以上も前に川棚小学校の教員だった。遠足で、子どもたちとクスの森まで歩いた記憶がある。もう遠い思い出になってしまったが、1本のクスの木が枝を四方に広げ、地面に着いた枝から根が生え、本当に森のように見えた。

しかし、今年の8月くらいから新聞やテレビのニュースで、このクスの森が取り上げられるようになった。だんだん枯れそうになっていると報道されたのだ。

気になったので、私は実家に帰ったときに、このクスの森に立ち寄ってみた。すると、まわりの環境は立派になっていた。広い駐車場が近くにできていた。立派な公衆便所もできていた。まわりも整備され、鬱蒼とした感じはなくなっていた。

当時、このクスの森の幹には小さな陸貝(カタツムリ)がいた。シーボルトコギセルという。貝の形が普通のカタツムリとまったく違う。どちらかというとかワニナのよ



元気がよかった頃のクスの森



葉がほとんど落ちたクスの森

うに長細い貝なのだ。今では幹のまわりには立ち入り禁止のロープが張られ、陸貝を確認することはできなかったが、見晴らしがよくなっただけ乾燥気味になったのかもしれない。

このクスの森を見に来る人たちのために配慮したことが、クスの森のためによかったのかと考えるのだ。大きなクスノキには、突然死がたまにあるという。大きな木は、頑丈そうに見えるのだが、意外に急な

環境の変化にはもろいのかかもしれない。それに最近の気候全般も厳しくなっているのも事実だ。夏場の高温が続いたり、豪雨や日照りなど劇的な気候が目立っている。植物もそんな気候にストレスを感じているはずだ。

“自然を守る”ということをよく耳にする。しかし、何がいいのかは十分に考えて判断することが大切だろう。植物は語ってくれないが、色つやや成長の勢いで今どんな様子なのかは判断できる。相手のことを考えながら行動することは、子育てと通じるものがあるようにも思う。今、いろいろと策は講じられているが、何百年も生きてきたクスの森が瀕死の危機になっているのは確かだ。このクスの森が元気よく再生してくれることを願っている。

年中長さんの生活発表会

12/4(月)～12/6(水) 年中長さんの生活発表会が行われました。残念ですがオレンジグループはインフルエンザのため、12/12(火)に延期されることになりました。12日には、オレンジグループのみなさんが演技をしてくれることと思います。

ピンクグループと青グループの生活発表会では、たくさんの保護者のみなさんに、子どもたちの演技を見ていただきました。有り難うございました。

今回はピンクグループと青グループの生活発表会について園長の感想を述べます。

「ねこのおいしゃさん」 ピンクグループ

12/4(月)ピンクグループの生活発表会でした。ねこのお医者さんが耳の中に虫が入ったのを取り除いたり、虫歯を治したりしてみんなに喜ばれます。しかし、今度はねこのお医者さんの喉が痛くなります。このときに、患者さ



んたちが治してくれるというお話でした。心が温くなるようなお話でした。ピンクグループのみんなは、落ち着いて演技をしてくれました。それぞれが意欲的に取り組み、子どもたちの考えがしっかり生かされていたからです。友だちと一緒に楽しく表現していました。日頃の取り組みの様子が、この発表会からよくわかりました。耳から虫とか、虫歯が白い歯へとか、ビジュアルがクスッと笑える子どもらしさが満載でした。



「みんないろのせかい」青グループ

話の展開が、なかなかおもしろいと思いました。いろいろな子どもがいて、いろいろな個性を持っている。それを色に例えて表現していました。例えばマット跳び箱が得意な子、太鼓をたたくことが好きな子、楽器の演奏が好きな子、ダンスが好きな子、そんな個性集まって、素晴らしい仲間ができるのだと教えてくれました。子どもたちは、それぞれの担当を力いっぱい頑張っていました。



私は、エンディングの歌がいいなと思いました。“みんな色の世界”という曲です。

「♪～みんなの色があつまれば ステキな色がうまれるよ それはみんなの宝物 イロトリドリに光る ～～ さあみんなの夢を描こう 色鮮やかに光る みんな色の世界～」最後を子どもたちがしっかりと歌ってくれたことが印象に残りました。

